ご存じですか？ボランティア制度 —その特徴と効果—

齊 藤 卓 志*

前回の年次大会において初めて導入されたボランティア制度ですが、概ね好評をもって受け入れられたとの判断により、今回の年次大会においても引き続き採用となりました。本稿では今回のボランティア制度について、その概要や特徴、あるいは会員の皆様にお伝えしたい点などをまとめております。

ボランティアの方々には昨年同様、年次大会における会場運営とそれに関する雑務をお手伝いいただきました。今回のボランティア募集ならびに実施に際しては、昨年の反省を参考にいくつかの改善を行いました。すなわち、会社/大学といった所属を問わない、期間中の人数配分を工夫することで他会場の聴講を可能とする、大会参加・懇親会への招待などです。これらに加え、関係各署の深いご理解とご協力のおかげを持ちまして、以下に挙げるとおり、昨年を大幅に上回る21名の方々からご協力の申出をいただくことができました。

朝比奈 靖 之	ポリプラスチックス株式会社
石 倉 健太郎	京都工芸繊維大学大学院
石 田 大	京都工芸繊維大学大学院
岩 下 英 紀	日精樹脂工業株式会社
小野木 隆 行	三井化学株式会社
加 藤 剛	東北ムネカタ株式会社
加 藤 真理子	大阪ガス株式会社
鎌 野 英 彦	三菱エンジニアリングプラスチックス株式会社
権 志 明	京都工芸繊維大学大学院
桜 井 孝 至	住友化学工業株式会社
繁 友 良 太	電気通信大学
返 町 秀 光	山形大学大学院
高 橋 英 彦	日産自動車株式会社
筒 井 香	京都工芸繊維大学大学院
C. チャロエン	金沢大学
中 田 徳 美	ポリプラスチックス株式会社
長谷川 智 巳	出光石油化学株式会社
林 佳 一	電気通信大学
福 田 晃	東北ムネカタ株式会社
安 田 健	福井大学大学院

渡 邊 満 ポリプラスチックス株式会社

(敬称略, 50音順)

上記の方々のご協力の賜物として、本年次大会における円滑な会場運営が可能となったことに、実行委員一同心よりお礼を申し上げる次第です。

ボランティアの皆様には、初めての会場での慣れない仕事にもかかわらず、実に真面目に取り組んでいただき、まさに痒いところに手が届く会場運営を行っていただけたものと思っております。また、今回ボランティアの皆様には「usher」という腕章をつけていただきました。これは会場係として司会者や講演者の方々にアピールするだけでなく、参加者の方々から一言でもお声をかけていただく機会を狙ったものでしたが、皆様にはお気付きでしたでしょうか。さらに、大会終了後の反省会に出席いただいたボランティアの方からは、大会運営に関して有意なご意見をいただきました。その幾つかを紹介させていただきます。

- ・会場内前方に次の講演者の席を設ける。
- ・座長や講演者が一目で識別できる印をつける。
- ・立ち見が出るのは仕方ないが、もう少し通路の幅を確保しないと人の移動ができない。
- ・各会場の大きさをあらかじめ講演者に伝えることで、OHPの文字の大きさに対する注意などを喚起できる。
- ・Breakfast Meetingなどを設けることで、あらかじめ座長と講演者が顔見知りになれる機会を作る。

改めて見直してみましても、単にボランティアの仕事の効率化という視点にとどまらず、年次大会運営そのもの、あるいは参加者の立場に立った改善意見も見受けられ、それだけ真剣に取り組んでいただいたと伺い知れる機会でした。

以上述べてきましたように、ボランティアの方々は実行委員会をお願いしていた会場運営の補助にとどまらない多くの利益を大会運営にもたらしております。一方、ボランティアの皆様にとりましても、単に大会運営に協力したという事実にとどまらず、見識や人脈を拓ける良い機会となったことと愚考致します。今後もボランティア制度は改善すべき点は改善すべきとして、若手技術者/研究者あるいは学生が学会活動に携わり、また慣れ親しむ場として継続していくものと思われます。会員皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

* Saito, Takushi
東京工業大学大学院 理工学研究科 機械制御システム専攻
目黒区大岡山 2-12-1 (〒152-8552)
2001.7.26 受理